

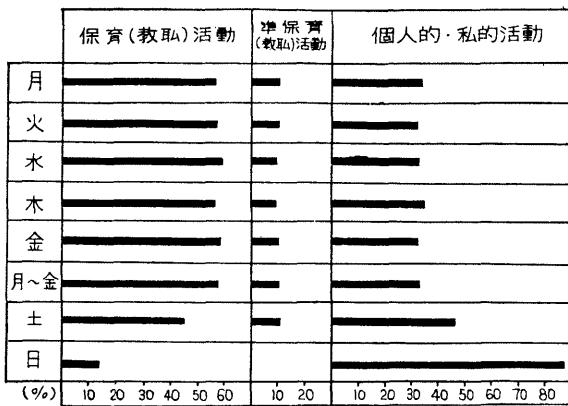
は、今回の場合が120分で8%、10・11・12月の(210分)15%より少なくなっている。

1日の全生活時間から睡眠時間と不明の活動を除き、活動時間だけによって保育活動、準保育活動、個人的活動を眺めたのが図1の比較である。保育活動と準保育活動とを合わせて教育活動としてみると、これは70%、個人活動30%であつて、公的活動対私的活動の比は7対3ということになる。

さらにこれらを全生活時間からみると、月々金については4・5・6月は、保育約9

時間半強、準保育活動1時間半、この2つを加えると11時間強になる。そして個人活動

図1 週間ににおける活動時間の比較 (%)



同様である。いずれにしても今回までの結果では、1日の全生活時間の40%前後が保育、10%未満が準保育、20%前後が個人的私的生活、睡眠が30%前後といった割合になる。土曜日の保育活動は、今回の場合は45分で全生活時間の30%、10・11・12月および1・2・3月の場合と大差はない。日曜日の保育活動

* * *
(愛知学芸大学)